

だっこだっこあみだっこ

平成 30 年

5.6
月号

ぼく・わたしを育てるほとけのことは
慈悲 (じひ)
—まわりからのやさしさに気づこう—



菜園日記

花まつり こども奉納会

東山浄苑東本願寺発！パパママ子どものフリーペーパーだっこだっこあみだっこです！

あみださまは、おかあさんの「だっこ」のように、あたたかくわたしたちをみまもって下さっている—
そのことに気づいたとき、わたしたちは安心して、自信をもって生きていけます。

未来をになう子どもたちは社会の宝もの。その子どもを育てる子育ては、とても尊い大事な
ことです。いい子になってほしい、と思いながらも、ほんとうのやさしさ、かし
こさ、強さってなんだろう？ —ほとけさまのみ教えが、悩めるパパ、ママのともしびに
なりますように。 ぜひ、ご家族みなさんでお読みください♪

FREE Paper

ぼく・わたしを育てる ほとけのことば

今月のことば：「慈悲(じひ) 一まわりからのやさしさに気づこう」

仏教には、今のわたしたちにとって、あたたかなとしびとなることばがたくさんあります。

「ほとけのことば」から、わたしたちの日々のくらしの目標をかんがえてみましょう♪

「慈悲(じひ)」ってどういうこと？

今月のテーマは「慈悲」です。ちょっとむずかしい言葉ですが、「慈悲をかける」「慈悲ぶかい人」などという言い方を聞いたことはありますか？



世間ではふつう「慈悲」というと、「よわい者をいつくしむこと」「かわいそうに思うこと」といった意味があります。「あの人は慈悲ぶかい人だ」というのは、なさけがふかくてやさしい人をほめる言葉です。ほかにも、少々大げさなものいいですが、相手になにかを許してほしいとき、お願いするときに、「どうかお慈悲を！」なんて言い方をすることもあります。「自分をかわいそうに思って、なさけをかけてくれ！」と頼んでいるわけですね。

このように、日常の日本語にすっかりなじんだ「慈悲」ですが、もともとは仏教に由来する言葉です。

仏教では、慈悲の「慈」は「ほかの人に安楽を与える(与^よ楽)」こと、「悲」は「ほかの人の苦しみに同情し、その苦しみをなくそうとする(抜^ば苦)」ことをいいます。

おしゃかさまの「慈悲」

仏教の聖典(だいじなお経の本)で、もっとも古いといわれているのが『スッタニパータ』というお経です。おしゃかさまは仏法・教えをご自身で文字にのこされなかったため、おしゃかさまの亡くなったあと、弟子たちはおしゃかさまの生前のおすがた・お声・説かれていた教えを思いおこしながら、これからずっとだいに守り伝えていこうと、お経の形にまとめました。中でも、この『スッタニパータ』はもっとも早い時期にまとめられたお経なので、おしゃかさまの言葉にいちばん近いといわれています。そこには、次のような言葉がおさめられています。

一切の生きとし生けるものは、幸福であれ、安穩であれ。
…すべての長いものでも、中くらいのものでも、短いものでも…
すでに生まれたものも、これから生まれるものでも、
すべての生きとし生けるものは自ら幸せであれ。
まるで母親が、自分の子どもを命がけで守るように、
すべての生きものに対してかぎりない慈^{いつく}しみの心をもつべきです。



おしゃかさまは、たいへんな苦行ののち、菩提樹ぼだいじゅの
木の下で静かに瞑想めいそうされ、ついにさとりを開かれました。
しかし、「このさとりを人々に伝えてもわかってもらえない
のではないかと」「わかってもらえないなら、自分だけ
のよろこびにしようか」と思い、一度は教えを広めるの
をためられました。梵天ぼんてん(神さま)が三度にわたり、
「どうか人々の苦しみをとりぞくため、その教えを広
めてください」とお願いをしたので、おしゃかさまは、
人々にこの教えを話して広める決心をされたのです。



今、わたしたちのところに仏さまの教えが届いている
のは、おしゃかさまのこうした「慈悲」のころがあった
からこそでしょう。布教の中で、おしゃかさまは、「まわりのすべての生きものは幸せであってほしい、お母
さんが我が子を命にかえても守るように、すべての生きものにいつくしみのころをもとう」と人々に説か
れました。

浄土真宗を開かれた親鸞しんらんさまは、「平等心びやうどうしんをうるときを 一子地いっしじとなづけたり 一子地は仏性ぶつしょうなり 安養あんりやう
にいたりてさとるべし」と和讃わさんによまれました。「一子地」とは、あらゆる人々ひとりひとりを、かけがえのな
いわが子のように思い、いつくむ阿弥陀あみださまのお心のことです。私たちのことを、「みんな」「その他大勢た おおぜい」
ではなく、「あなた」を救おう、と言って下さっているのが、阿弥陀さまの「慈悲」なのです。

わたしたちにできる「慈悲」

自分だけがよければいい、自分だけ得をしたい、ほかの人にいいことがある
とずるいと思う、人に悪いことがおこっても自分には関係ないから手を貸す必要
はない——残念ながら、今の世の中はそうのように考える人もいます。

でも、あなたはどうですか？ あなたに楽しいことがあっても、おともだちに悲
しいことがあって泣いていたら……あなたはきっと、心から楽しい気持ちにはな
らないでしょう。



学校で悲しいことがあったとき、お母さんが「どうした
の？」と話を聞いてくれた。とってもうれしいことがあつ
たとき、おともだちも一緒によろこんでくれた。うれしい
ことを一緒によろこぶ人がいれば、うれしい気持ちは何
倍にもなります。悲しいことを一緒に悲しみ、よりそって
くれる人がいれば、悲しい気持ちはだんだん小さくなっ
ていくでしょう。

人の悲しみを一緒に悲しみ、人のよろこびを一緒によ
ろこぶ——そんなころを大事にすることで、自分に向けられたまわりからのやさ
しさにも気づくことができるのです。



だっこだっこあみだっこは、毎月東山浄苑東本願寺で開催して
いる「親子仏法の集い」の活動内容をもとに編集しています♪

親子仏法の集い -仏法に親もう 土に親もう!- ってなあに？

毎月第3日曜日(行事等で変更の場合あり)に、
東山浄苑東本願寺の菜園で行っている親子向けの活動。
なんでもありがたいいただいて、粗末にしない一古きよき日本人を育てた仏教の教えです。

家族で野菜づくりや年中行事に親しみ、
「いただきます」「ありがたい」の豊かなこころを育てましょう。
乳幼児から中学生までのお子さんご家族はどなたでも参加できます。
お気軽にお尋ねください！



【活動日】 毎月第3 日曜日 ・年中行事の折には変更

【場所】 東山浄苑東本願寺

※ベビールーム完備 ※屋内無料駐車場完備 ※参加ご家族30組限定

★お問い合わせ・参加のお申し込みは★
東山浄苑東本願寺 総合受付

電話 **075-541-8391** 毎日 9:00
～17:00



— 参加者募集中！今後の親子仏法の集いご案内 —

6月24日(日)

10:00～12:00

【6月の言葉と目標】

いんが
因果

— わるさをするとじぶんにかえってくる —

【活動内容】

じゃがいもの収穫

※6月度活動は第4日曜日に開催します。お気をつけ下さい。

7月15日(日)

10:00～12:00

【7月の言葉と目標】

しょうど
浄土

— 目に見えない世界を知る —

【活動内容】

オクラ・とうもろこし・きゅうりの収穫

長ねぎの植え付け

【場 所】 東山浄苑東本願寺内 あみだっこ菜園 など

【参加費】 1家族 1回 1,000円

※野菜の生育状況などによって、活動内容は予告なく変更になる場合があります。
あらかじめ、ご了承ください。

※雨天の場合は、朱印帳づくりなど室内企画を行います！お楽しみに♪

※参加ご希望の方は
事前にお電話で
お申し込みください。

だっこだっこあみだっこ 平成30年5・6月号

平成30年5月20日発行 発行・印刷/東山浄苑東本願寺 〒607-8461 京都市山科区上花山旭山町8-1 電話 075-541-8391

無料